

平成22年度 日本史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書等

科目名	日本史B	単位数	4	履修学年・区分	普通科・2年文系選択者
使用教科書	『新選日本史』（東京書籍）				
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店）				

2 学習目標

わが国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し，わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養い，真の国際化に対応できることを目標とします。

3 学習方法

（1）常日頃から，社会事象（時事問題，世界の情勢）に興味・関心を持ち，新聞や雑誌などに目を通す習慣を身につけましょう。また，テレビやラジオのニュースなども視聴し，わからない言葉や地名が出てきたら，事典や地図帳で確認することが大切です。

（2）「地理」「歴史」とともに必要最小限のことは暗記することが大切です。しかし，やみ雲に暗記できるわけではありません。「何故このようなことが起こったのか。」，「何故このような産業が盛んなのか。」，「何故このような問題が生じたのか。」常にその背景について考え，理解を深めながら整理して覚えましょう。TVの紀行番組，歴史番組や特集番組も大変役立ちます。また，歴史的事象に対する興味・関心をさらに深め，発展的な学習に取り組むには，歴史に関する解説書や小説などを読んだり，博物館や郷土資料館などに行って実物を見ることもいいでしょう。

（3）読書の習慣を身に付けましょう。ゲームやファッションなどの娯楽に流され，活字離れの社会風潮がありますが，若い時代，感受性の高いときに読んだ本は生きた知識・教養になります。

（4）授業では必ず，資料集や地図帳など副教材を用意すること。授業は教科書，プリント副教材等を使用して進めます。教科書の授業範囲をよく読んで，基本的事項を理解し，わからないところや疑問点を整理して授業に臨みましょう。板書事項以外でも大切なことはメモをとりましょう。受身の学習ではなく，自ら学ぶ学習を心掛けよう。自分から求めた知識は生きた知識になります。また，復習の際は，授業内容を確認し，基礎的な内容の問題集に取り組んでみましょう。学習内容のまとめり毎に，確認テストを行います。

（5）重要な事項や地名・人物名は何度も書くことによって覚えましょう。自分流のサブノートを作って整理すると，理解が深まります。問題集を活用し，単元ごとに問題を解き，実践を積みればより効果的です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習活動・ねらい	評価のポイント，課題・提出物等
第1学期	4	オリエンテーション 第1章 古代国家の形成と古代文化	授業の進め方等について説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト①を行う。
	5	① 原始社会の生活と文化 ② 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 ③ 律令国家の形成と古代文化の展開 ④ 貴族政治と国風文化の発達 1学期中間考査 範囲： p 5. ～ p 6 2.	原始共同社会から農耕を通し階級・身分制度が成立する過程を学ぶ。 律令体制に基づく古代社会の枠組みを学ぶ。	
	6	第2章 武家社会の形成と中世文化 ① 武家社会の形成と文化の新気運 ② 下剋上の社会と庶民文化の萌芽	院政以降，貴族政権から武家政権に転換する背景を探る。	
	7		室町文化の性格と戦国	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価す

			時代の実情を理解する。	る。 ・確認テスト②を行う。
		1学期末考査 範囲： p 63. ～ p 102.		
第2学期	8	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 ① ヨーロッパ文化の接触と国内統一 ② 幕藩体制の成立 ③ 近世社会の発達と町人文化 ④ 近世社会の動揺と庶民文化の発達	鉄砲とキリスト教が、信長→秀吉の統一事業に与えた影響を知る。江戸幕府成立の過程を学ぶ。幕政の安定と経済・社会の仕組みについて理解する。	・授業を聞き、内容を板書する。ノートを提出させ、授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し、評価する。 ・確認テスト③を行う。
	9			
		2学期中間考査 範囲： p 103. ～ p 156.		
	11	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 ① 開国から明治維新へ ② 立憲政治の形成と国民文化 ③ 日本の近代化東アジア ④ デモクラシーと市民文化 ⑤ 激動する世界と日本	幕末から明治へと激動の時代を学び、近代国家形成の課程を学ぶ。民主主義の形成、国民文化の発展を学ぶ。	・授業を聞き、内容を板書する。ノートを提出させ、授業への取り組みを確認する。 ・確認テスト②を行う。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し、評価する。 ・確認テスト④を行う。
	12			
		2学期末考査 範囲： p 157. ～ p 238.		
第3学期	1	第5章 現代の世界と日本 ① 占領と国内改革 ② 国際社会への復帰と高度経済成長 ③ 石油危機と低成長の時代 ④ 新しい国際秩序と日本の課題	戦後の日本の復興から発展そして現代へとどのように推移してきたかを学ぶ。	・授業を聞き、内容を板書する。ノートを提出させ、授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し、評価する。 ・確認テスト⑤を行う。 ・3年次の学習を終えた時点で、学習の成果を生かして、生徒が設定する課題による追究学習を実施し、レポートにまとめ提出する。
		学年末考査 範囲： p 239. ～ p 289.		

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価規準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	原始・古代から現代に至るまでの我が国の歴史の変遷を学習する。その際に政治の流れや経済の発展過程を学ぶだけでなく、文化の特徴や歴史上の人物についても学習する。近現代の歴史では、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせる授業を展開し、近現代史を中心とする自国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
2 思考・判断	自国の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせ、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化

	を踏まえ公正に判断する。
3 技能・表現	自国の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
4 知識・理解	自国を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立って各国との関連も考えながら理解し、その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	—	—	○	自己評価の実施。
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施。
課題追究レポート	○	◎	○	○	学年末に提出。
提出物	○	—	○	○	学習の取り組み状況の確認。
定期考査	○	◎	◎	◎	定期考査年5回実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)